

令和6年度第4回狛江市基本計画推進委員会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月21日（水）午後6時54分～午後8時47分
- 2 場 所 防災センター3階 303会議室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司
委 員 村上 裕章 委 員 河内 広樹
委 員 佐藤 慶 委 員 佐藤 淳哉
委 員 名古屋 信夫 委 員 高橋 良典
事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査
宇野企画調整担当主任
- 4 欠席者 委 員 水谷 成江
- 5 議 事 1 評価対象施策A「放課後の活動場所の充実」の評価について
2 評価対象施策B「治水対策の推進」の評価について
3 狛江市前期基本計画の総括について
(令和3年度から令和5年度における提言に対する取組結果等について)
4 SDGsに対する評価について
5 その他

6 会議概要

- 1 評価対象施策A「放課後の活動場所の充実」の評価について
—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【委員】

定員の弾力化とは具体的にはどういったことか。

【委員】

放課後クラブは、定員45人のところが多いが、全員が毎日通うわけでないので、受入れ人数を50人ぐらいまで拡大という形をとり、1日あたりの利用が45人程度になるように対応しているものである。

【委員】

表現の問題であるが、「定員」という言葉が続いているので、表現を整理した方が良い。

「将来の少子化人口減少を踏まえ、持続可能な運営体制を整えていただきたい」という記載があるが、この持続可能な運営体制とは具体的にはどういったことか。

【事務局】

民営化すると、将来的に民間事業者が撤退した場合に事業が継続できなくなるのでは

ないかという意見があったので、民営化を行っても将来的に事業が継続できるように取り組むという意味である。

【委員長】

定員の弾力化では、定員の数は変わらないということか。

【委員】

全体での定員数は変わらないが、入所の決定するときに定員 45 人でも 50 人の入所を認めている状態である。

【委員長】

受入れ人数について柔軟に対応しているとのことであれば、そのニュアンスを入れても良いのではないか。

【副委員長】

施設が増加しているという記載があるのに、施設整備等が追いつかずというのは、矛盾した表現なので、修正した方が良い。

【委員】

持続可能な運営体制が民営化の事を指しているのであれば、次の段落で民営化について触れているので、内容を整理した方が良い。

【副委員長】

持続可能な運営体制は、無計画に施設を増やしていくと今後、少子化が進行したときに空き施設ができてしまうから、無計画に施設は増やさずに持続可能な運営を考えてくださいという意味だと思う。

【事務局】

前回、副委員長から施設整備を続けていても、子供が減ると施設数とのミスマッチが起きるとの意見をいただいたので、人口推計に見合った施設整備を行うという意味もあり、加えたが、分かりにくくなっているので、表現は工夫する。

【委員】

持続可能という言葉は様々な意味で捉えることができるので、別の言葉に言い換えても良いのではないか。

【委員長】

今の意見を踏まえ表現については、整理していただきたい。また、予想以上に児童数が増加し、行政も推計したが、推計以上に増えてしまって対応が必要になっているというのを記載しても良いのではないか。

【委員】

学童の利用見込者数だと、0歳児などとは異なり、転入状況や幼年人口からある程度精度が高い推計ができるはずであり、そこを見据えて対策すべきであったという意見が出るのではないかと思う。将来の少子化人口減少も踏まえて、身の丈にあった施設規模・運営を続けていくことが、持続可能な運営体制になるのではないかと思う。

施設規模について一定のところで抑えるということが分かると、持続可能な運営体制の意味が分かるのではないかと思う。

【委員長】

今の意見を踏まえ表現については、整理していただきたい。

【委員】

表現の問題であるが、児童数及び想定を上回る学童クラブ申請児童数の増加により、待機児童数も増加傾向にあるとした方が意味が通じると思う。

【事務局】

いただいた意見を踏まえ提言の表現については、整理、修正する。

2 評価対象施策B「治水対策の推進」について

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【委員】

指標のA雨水浸透設備の整備だが、令和2年度は2件で事業費が9,867千円、令和3年度が1件で3,793千円となっている。令和5年度は1件で73千円となっており、事業費に乖離がある。また、浸透トレンチ設置延長の目標が400m/年となっているが、実績と約10倍の乖離があり、目標値が過大であると思う。事業費との乖離の理由や目標値の根拠について伺いたい。

【事務局】

担当課に確認する。

【委員】

この施策には多額の事業費がかかるかと思っていたが、思ったほどの事業費ではなかった。事業費が最も多いのが、令和4年度の東日本台風による浸水被害軽減対策であるが、その内訳を知りたい。また、先程の説明では浸水対策には、アウトカム指標がないとのことであったが、代替りの指標はないのか。浸水対策では、ポンプ場が一番重要になってくると思うが、ポンプ場の数については、事業費や指標の中に記載がない。ポンプ場の整備等がどこまで進んでいるのかが、この施策の成果になるのではないか。住民の関心事からこの施策の総括の部分の記載を考えた方が良いと思う。

【事務局】

事業費の内訳は担当課で持っているが、項目が多いので、評価シートで示すことが難しいため、事業総額として記載している。

【委員】

最終目標が被害家屋ゼロを目指す取組というのは分かるが、予算規模からして達成は

不可能なはずなので、どの程度被害が軽減されたら良いというのを指標で示してもらった方が評価しやすい。

【事務局】

浸水対策については、再度災害防止の観点から、狛江市下水道浸水被害軽減総合計画に基づき、令和元年東日本台風と同規模の出水に対して浸水を解消する取り組みを進めているところである。事業費としては、市内に2箇所ある樋管の遠隔操作化や逆流防止ゲートの設置などが大きい。今後、ポンプ場の設置を進めていく。

【委員】

浸水被害軽減の計画があるのとのことだが、評価シート上では記載がないので、記載した方が良いと思う。他の自治体では地下に貯水槽を作っているが、狛江でも浸透ますの設置などではなく、そういった大規模施設を造り、河川の水位の上昇を抑えるために水を吸い出すポンプの設置をしていく方が良いのではないか。

【事務局】

狛江市下水道浸水被害軽減総合計画の策定段階で、費用対効果や実現可能性を検討した上で対策を定め、シミュレーションし、令和元年東日本台風と同規模の出水に対して浸水被害が無くなるようにしている。

【委員】

市民としては、浸透ますの数を言われても分からないので、計画がどこまで進捗しているかを分かるように示してほしい。

【事務局】

総括において、計画の進捗や成果について記載するようにする。

【委員長】

今、意見のあったとおり事業費の額が大きいので、市民としてもそこは関心があると思うので、成果についてしっかり記載した方が良い。成果の記載がないと取組に対する説明を十分に果たしているとは言えないのではないか。

【委員】

上水道は、昔埋設した上水管のメンテナンスをしている話を聞くが、下水道設備についても、機能低下の問題があるのか。雨水管渠の整備について、記載があるが下水道設備が機能できる状態であるのかも市民としては関心がある。

【委員長】

事務局の説明にあった浸透ますの助成について、利用件数が少ないので担当課としても制度の認知度が低いことは課題として捉えていると思うが、工事を請け負う工務店等にもあまり知られていないものなのか。

【事務局】

工務店は、助成金があることは承知しているようだが、浸透ますを設置したとしても、設置者自身の住宅の直接の浸水対策の大きな効果があるものではないため、設置するメ

リットまでは伝わってはいないと思われる。

【委員長】

何のためにこの事業を実施しているのか。

【委員】

浸水対策の側面もあるが、基本的には地下水を地面に戻し、自然環境を保全する意味でも実施している。先ほど話のあった下水道の機能ということだけで言えば、1時間に50ミリの降雨でも浸水はしない対策は市としてできている。令和元年の東日本台風の時は、多摩川の水位が高くなって、川に雨水を流そうとしたが、多摩川の水位が高くなってしまったので、流れなくなってしまい、雨水が溜まり、浸水したという状況であった。

これを解決するためには、できるだけ川に流すしかないので、無理やり流すポンプを多摩川の傍に設置して、雨水をポンプの力で直接多摩川に流す計画を今作っている。猪方と多摩川住宅六郷樋管の2ヶ所ポンプを設置する予定としている。この規模のポンプで、この量の力で押し出せば、多摩川の水位が高くても流せるというシミュレーションが一応終わっており、ポンプの設計を実施しているところである。もう一方の猪方の方は、市の土地がないので、まずはそのポンプを設置できる土地を購入しなければならないので、用地買収に時間を要している。ポンプが完成すると両方で40億ぐらいの整備費用になると見込んでいる。最近の集中豪雨で1時間に75ミリ対応というのが、言われ始めているのが、今の現状だと、そこまでは対応できていない。下水道の長期的な計画の見直しを現在行っているので、こういった対策が必要になってくるのかを計画の中で示すこととしている。ポンプの事業費については、六郷の多摩川住宅の樋管については、狛江よりも調布市からの雨水を流しているのので、調布市にも事業費の負担をしていただいております。狛江の負担は少なくはなっている。

【委員】

評価シートに「河川への雨水の流出を抑える」と記載があり、その理由を質問したことへの回答では、「川の水位を上げないためにも流出を抑制する施設は必要」とあった。今の説明だとポンプで多摩川に雨水を流すとのことだが、矛盾しているのではないかと。

【委員】

狛江で計画してポンプで多摩川に雨水を流すことについては、京浜河川事務所に認められてる。多摩川は流域が長く、上流で多量の水を流してしまうと、下流の地域は越水してしまう可能性があるのので、原則として、川の水位を上げないためにも雨水の流出抑制が必要ではある。国の方で多摩川自体を深く掘る工事を行い雨水を流しても水位が上がらないよう治水対策を行っている。今回、狛江が計画の範囲内であれば、水を流しても良いことは、国に認められてはいるが、計画で想定している以上の雨量があった場合には、流すことはできないと思う。

3 狛江市前期基本計画の総括について

(令和3年度から令和5年度における提言に対する取組結果等について)

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【副委員長】

令和3年度、令和4年度、令和5年度の評価対象施策について、その進捗を委員会で報告することに元々なっていたのか。大体このような委員会で「検討します」という回答は、検討で終わってしまうことが多いが、具体的な取組の結果が報告されることは、特に令和3年度、4年度の施策は今の委員のほとんどが携わっていないので、非常に良い取組であると思う。

【事務局】

昨年度までは実施していない。提言いただいて、その年度内に一旦、取組状況の報告はさせていただいているが、今年度は前期基本計画の最終年であるので、本委員合より提言いただいたことに取り組めたのかどうかを確認していただくために今年度に初めて実施した。

【副委員長】

このような評価サイクルができていることは、評価できる。

【委員】

この総括は、後期基本計画に反映されるのか。

【事務局】

現在、後期基本計画の策定作業中であるので、今回の取組の中で取り入れられるものは施策に反映したい。

【委員長】

後期基本計画に反映できるもの反映していただきたい。

4 SDGsに対する評価について

—事務局から説明—

【委員長】

事務局の説明に対する御意見等あるか。

【副委員長】

治水対策のSDGsのゴールは、13気候変動ではなく、11持続可能な都市ではないのか。

【事務局】

11 持続可能な都市に修正する。

【委員】

浸透ますは、先ほどの議論からいうと、軽微な問題であるので、記載しなくても良いのではないかと。ローカル指標で達成しているものがあるのであれば、そこは評価しても良いのではないかと。

【副委員長】

本来的にはSDGsの評価は、各ゴールごとに評価するのではなく、全てのゴールが達成できているかで評価するものである。施策の指標がゴールを分割して達成しているかで評価するものではないので、非常に難しいところである。

【委員】

全体で評価するという事は分かるが、個々の部分で達成しているかどうかを評価するのも良いかと思う。SDGsのローカル指標で被害面積が0.01㎡となっているのであれば、ローカル指標の目標を達成していると評価しても良いのではないかと。

【事務局】

水害区域面積割合は、水害のない年が続くと治水対策の取組に関わらず数値が減少するものであるため、取組の成果の確認という観点にはなじまないと考えている。

【委員】

市のSDGsの考え方について、整理して考えてはどうか。

【委員】

SDGsの視点は規模が大きく、市民の暮らしとは少しずれる設定が多いと感じる。市民としては、市の施策の効果が分かるようにしてほしい。可能な範囲でSDGs視点を入れて評価するという事で良いのではないかと。

【副委員長】

例えば、SDGsのナショナルデータベースに仙台防災枠組があるが、仙台防災枠組と狛江の治水対策を照らして出来ている、出来ていないを見るのも良いと思う。

1個の指標というよりは、SDGs全体の大きな方針の中で、考えても良いのではないかと。

【委員長】

狛江市の取組でローカル指標にあまり引っ張られるずにナショナルデータベースにおける定義なども参考にしながらその中で、着実に取り組んでいるということでも良いのではないかと。

【副委員長】

補足ではあるが、SDGsの実施指針の中に各地方自治体ごとに自分たちで指標を設定してくださいとあるので、狛江市の場合だと、前期基本計画の中で、独自の指標、KPIが設定されていること自体は、実施指針のとおりであり、すでに取り組んでいるこ

となので、方向性は間違っていない。

【委員長】

治水対策は、浸透ますを指標にするのはやめにして、他の指標でSDGsに関連する指標があればそちらの指標に変更していただきたいが、適当な指標がなければ、そのままでも良いと思う。

5 その他

【事務局】

今回は9月12日（木）に開催する。次回の委員会では、本日、提言いただいた内容を取りまとめた報告書の形で確認していただく予定である。

開催通知及び資料は、資料が調製でき次第、委員会の開催1週間前を目途に送付する。

また、質問等があれば、メールにて事務局までお願いする。

【委員長】

その他特に御意見等なければ、令和6年度第4回狛江市基本計画推進委員会を終了とする。